

# 3・30三里塚 全国にうて出よう

決起を突破に 三里塚-国鉄ゼネスト=11月決戦必勝へむけて

3/2 14回定期  
期中での中野  
委員長の挨拶



## 日刊 動労千葉

86. 3. 25

No. 2198

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 第一ノ第二波 闘争が切り拓いた成果

委員会の獲得すべき課題は、分割・民営化という未曾有の攻撃に対する二波の闘いを総括し、全職場に定着させるとともに、今後、いかなる展望をみい出していくのかについて意志統一することである。

われわれは、分割・民営化が断じて許せぬ攻撃であるがゆえに、満を持してストを決行したが、この闘いを通して分割・民営化の本質をさらけ出し、社会焦点化させることに成功した。

これに恐怖した当局は、重処分をもって圧殺をたくらんできたが、一月二九日以降、一カ月間に及ぶ第二波闘争に突入、国労と結託したスト破壊を粉碎して2・15ストを貫徹し、当局の目論見を粉碎した。とりわけ、業務移管阻止の闘いは、国労田町や津田沼の決起を実現し、こうした高揚のなかで国労は妥結できず、当局を見切り発車に追いこんだのである。

われわれは、昨年の大会で分割・民営化とはいかなる攻撃なのか明らかにしてきたが、二波の闘いによって、土地売却ノ権利あさり、業務移管、広域配転ノ三人に一人の首切り、新事業体ノ過酷な労働条件であることがさらけだされた。

去るも地獄・残るも地獄である以上、ゆるぎない団結のうえに、さらに飛躍をかちとり、十一月ダイ改を焦点とする闘いにむけ、ばく進しなければならぬ。

### 当面する闘いの課題

以上の点から、当面する闘いの第一の課題は、中曽根が強行しようとする国鉄関連法案、土地売却のカラクリの破綻が、

分割・民営化の根拠をつき崩すものとなり、自民党の強行に対してはストを含めた大闘争に決起し、法案成立を阻止しなければならぬ。

第二の課題は、すでは始まった広域配転の狙いは労働者間に分裂・対立をもちこみ、これを利用して首切りの手段とするものであり、当局のお先棒をかつぐ動労「本部」革マルの攻撃をみすえ、本質をあばく中から、業務移管攻撃の教訓を全体のものとし、具体的闘いを準備し粉碎していかなければならない。

第三の課題は、当局は全国、全職場で勤務評定を行うとしているが、これは選別のための道具であり、絶対に認めない闘いを開始しなければならない。

第四の課題は、労働組合解体の分割・民営化攻撃と一体となった動労「本部」革マルの組織破壊攻撃を粉碎するため、家族会の育成強化をはじめ、家族ぐるみの団結を強化し、全国へむけてはばたくことである。

### 3・30三里塚から11月決戦へ

いずれにせよ、国鉄労働者が選択する道は、当局の手先となつて自己保身をはかるのか、苦しくても闘いにたつのかのいずれかである。

十一月ダイ改が「余剰人員」問題の総まとめのダイ改である以上、合理化をストップすることが十万人首切りの出発点となる。焦点は、貨物合理化粉碎であり、木原線廃止反対、業務移管阻止をかかげ、国鉄関連法案、広域配転、勤務評定による選別攻撃との闘いをすすめながら、十一月を決戦として全組合員一丸となつて闘おう。

動労千葉の団結が確立されている限り必ずやりぬける、3・30三里塚への五度目の五割動員を実現し総決起しよう。